

## 館長だより第32号（2022・6）

令和4年度春期企画展「古代『紀伊国』の成り立ち—奈良・平安時代のわかやま—」は、6月19日に終了いたしました。

ようやく落ち着きを見せ始めましたが、依然としてマスクの着用などが残されている新型コロナ禍の中、風土記の丘にお越しいただいた皆様方には感染防止対策にご協力をいただき、ありがとうございました。

紀伊風土記の丘では、夏期企画展「くだもの民具—うめ・かき・みかんの農業遺産—」開催に向けての準備が最終段階を迎えております。とりわけ和歌山県は、ウメ、カキ、ミカンなどを温暖な気候を利用して古くから果樹を盛んに栽培し、それらを商品作物として生産、加工してきました。

とくにミカンや梅干しは江戸時代から紀州の名産として全国に知られ、明治時代には紀北地域を中心にカキの栽培が盛んとなり、それぞれ栽培技術の近代化と交通網の整備発達によって、日本各地へ出荷されるようになりました。

とりわけ和歌山の特産物として知られるウメ、カキ、ミカンは、全国屈指の生産量とシェアを誇り、このうちウメは、世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」に、ミカンは日本農業遺産「下津野蔵出しみかんシステム」「有田みかんシステム」に、それぞれ認定されるなど、長い歳月をかけて生産技術の改良が重ねられ、商品くだものとして地域を挙げての振興が図られています。

今回の企画展では、江戸時代から近現代にかけて栽培・生産された和歌山になじみの深いくだものにまつわる生産技術にかかわる民具と、これらの栽培の歴史や変遷、日本を代表する農業遺産にも選ばれる農業システムの特色について紹介します。

### ・開催期間

令和4年7月16日（土）～同年9月4日（日）

### ・会場

和歌山県立紀伊風土記の丘 企画展示室

### ・展示構成

#### 【プロローグ】

くだもの王国・和歌山が誇る農業遺産

#### 【第1章】

うめの栽培の歴史と技術

#### 【第2章】

かき栽培の歴史と技術

### 【第3章】

みかん栽培の歴史と技術

### 【エピローグ】

紀伊風土記の丘にあるくだもの、暮らしに身近なくだもの

#### ・関連行事

展示講座「くだものの民具」

講師；蘇理剛志（主査学芸員）

日時；令和4年8月14日（日）、13：30～15：30

会場；和歌山県立風土記の丘研修室

対象；小学生以上

定員；30名

参加費；資料代100円（別途入館料が必要です。）

申し込み；電話により受付

受付開始；令和4年7月29日（金）13：00～

（電話番号073-471-6123）

・入館料；一般190円（150円）、大学生90円（70円）、（ ）内は20名以上の団体料金、：※65歳以上・高校生以下・県内在学の留学生・障害者の方は無料（要証明）

・休館日；毎週月曜日※月曜日が祝休日の場合は次の平日。

#### ・主な展示物

紀伊名所図会（パネル）、粉河寺縁起絵巻（パネル）

うめ収穫用具（うめ籠、ポツリ）-----みなべ町蔵

植栽用具（スキ、トンガ、草刈鎌）—個人蔵

栗生のおも講と堂徒式関連資料——個人蔵

かき収穫用具（ハサミ、かき採り籠）——個紀の川市、かつらぎ町蔵

串柿加工用具——かつらぎ町四喜の会蔵

すし箱（柿の葉づし）-----当館蔵

柿渋を利用した民具（渋うちわ、渋地椀など）——個当館蔵

中井甚兵衛『紀州蜜柑伝来記』享保19年（1781）—和歌山県立図書館蔵

村瀬敬之『南海包譜稿本』文政元年（1818）——和歌山県立図書館蔵

蜜柑植栽用具・収穫用具・出荷用具——有田市教育委員会蔵

海南市教育委員会蔵

他多数